

“みんなでつくろう
心豊かですみよい北佐原”

☆ 北 佐 原 地 区 ☆
地 域 ま ち づ く り 計 画



北佐原まちづくり協議会

目 次

第1章 はじめに

- 1 計画策定の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- 2 計画の位置づけ・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- 3 計画の期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- 4 計画の構成・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

第2章 北佐原地区の概要とまちづくりの主要課題

- 1 地区の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
- 2 地域住民の意向・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
 - ★第1回地区別まちづくり座談会開催結果・・・・・・・・・・6
 - ☆北佐原住民まちづくりアンケート調査結果・・・・・・・・9
- 3 北佐原地区の主な課題・・・・・・・・・・・・・・・・19
- 4 香取市総合計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・21

第3章 北佐原地区が目指す将来像

- 1 まちづくりの全体テーマ（地区の将来像）・・・・・・・・22
- 2 まちづくりの基本理念・・・・・・・・・・・・・・・・23

第4章 将来像の実現に向けた施策

- 1 基本施策と活動例・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
- 2 推進体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・30

おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・31

第1章 はじめに

1 計画策定の趣旨

私たちが住んでいる北佐原地区は、農業を中心とした産業と恵まれた自然環境に囲まれた地域で、人々も比較的平穏な生活を営んできました。

しかし、北佐原地区全体としてのあるべき姿が明確でないまま、今日に至ってきたと思われます。

今回、策定した「まちづくり計画書」は、北佐原地区全体として、どのような「地区」であるべきか、地域住民のみなさんとともに考え、実践するための指針として作成したものです。

今後、当計画の具現化に向けて、「北佐原まちづくり協議会」（以下「協議会」という。）を中心に、皆様のご支援・ご協力をいただきながら、積極的に活動を進めていきたいと思いをします。

2 計画の位置づけ

本計画に掲げる施策（活動）等の実践については、直ちに、地域や協議会の体制・環境を整えられるものでなく、また、行政のように全て予算的裏付けを持てるものでもないことから、この計画は、今後の方向性や活動指針といった意味も含めた計画として位置付けることとし、年次的な優先順位付けを行わず、活動体制や取り組むことのできる環境が整ってきたものから順次取り組んでいくこととします。

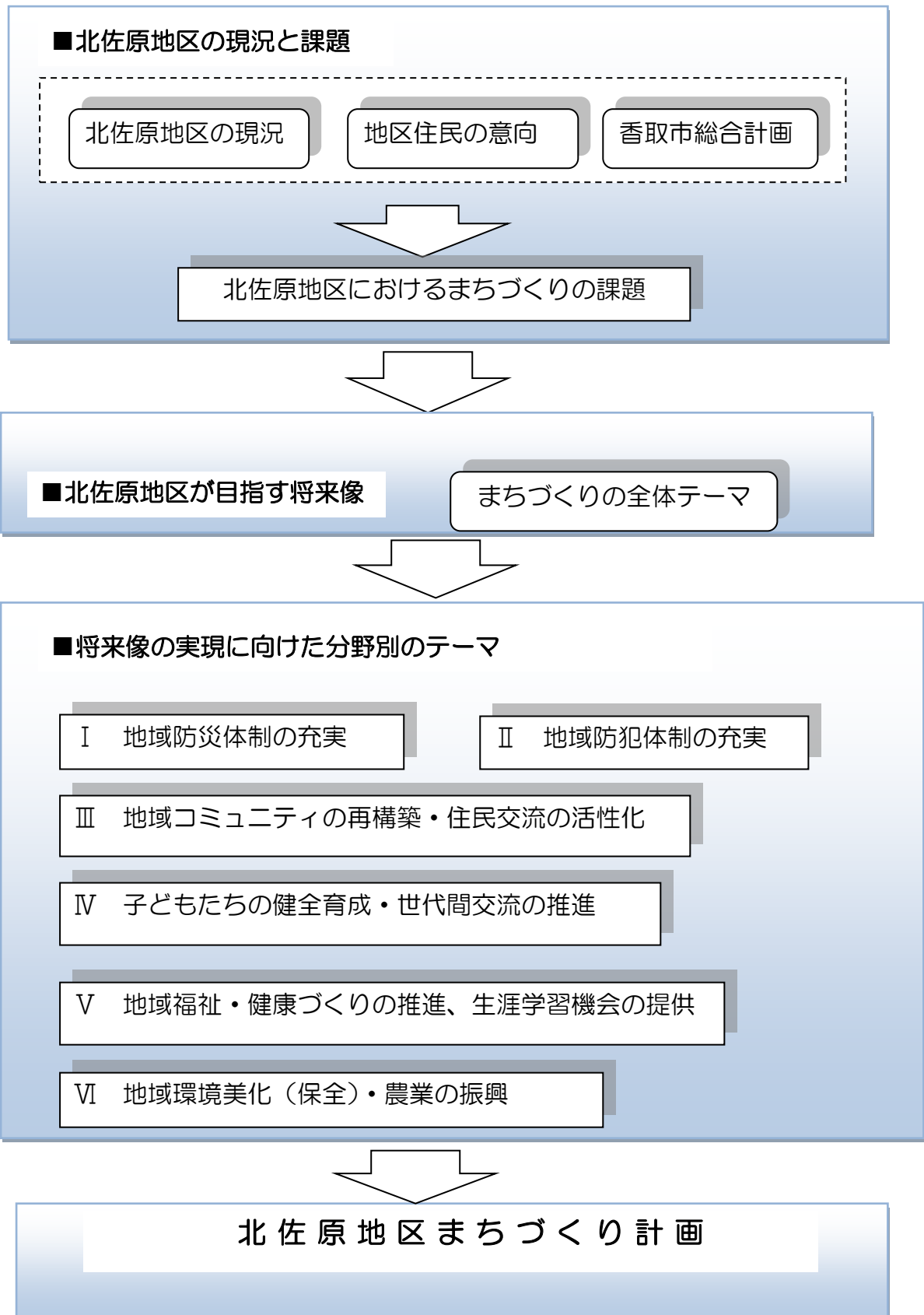
3 計画の期間

概ね10年後の北佐原地区の将来像を想像し、その実現に向け、様々な取り組みを行います。

10年後の地区の将来像を実現するために、また、実際に協議会の活動にご協力いただく住民の皆さんの負担とならないよう、無理のない範囲で、できる活動から始め、徐々に活動の多様化を図っていくこととします。

なお、具体的には毎年策定する各年度の事業計画及び予算において実施内容などを示していくこととします。

4 計画の構成



第2章 北佐原地区の概要とまちづくりの主要課題

1 地区の概要

北佐原地区は、明治22年の町村施行により誕生した旧佐原町に由来し、その後、昭和30年に佐原市に編入され、平成18年の合併による香取市（平成の大合併）へと市の行政区域は拡大してきましたが、これまで一つのまとまった地域として歩んできました。

現在は、向津、砂場、荒川、筈島、長島第1、長島第2、中洲、篠原新田、野間谷原、石納の計10の自治会で構成されています。

2 地区データ

全 体 人 口		平成3年	平成13年	平成23年	増減率 (H3/H23)
	佐原区	51,068	49,661	44,809	-12.3%
	北佐原地区	2,863	2,717	2,452	-14.4%

年 少 人 口	0歳～14歳	平成3年	平成13年	平成23年	増減率 (H3/H23)
	佐原区	9,164	6,912	5,033	-45.1%
	北佐原地区	513	337	281	-45.2%

生 産 年 齢 人 口	15歳～64歳	平成3年	平成13年	平成23年	増減率 (H3/H23)
	佐原区	34,090	32,109	27,690	-18.8%
	北佐原地区	1,855	1,730	1,500	-19.1%

老年人口	65歳以上	平成3年	平成13年	平成23年	増減率 (H3/H23)
	佐原区	7,814	10,640	12,086	54.7%
	北佐原地区	495	650	671	35.6%

(2) 地 勢

北佐原地区は、横利根川を挟んで茨城県（稲敷市）と接する香取市域の北東部に位置し、食料生産基地としての機能を持つ水田地帯と豊かな水辺環境の「水郷」が広がる、豊かな自然が息づく地域です。

(3) 交 通

道路としては、幹線道路の県道佐原潮来線や市道が走り、市街地とは水郷大橋で結ばれています。

公共交通としては、ＪＲ佐原駅や市内の医療機関などを結ぶ路線バスと佐原循環バス（北佐原・新島ルート：毎週月・火・木・金曜日運行）が走っています。

(4) 歴史・文化

砂場区の「砂場（すなっぱ）観世音子授子安観音」は、昔から現在に至るまで、子宝を授かることを願って、毎月18日、日本全国から多くの人が訪れ、口コミではありますが、8割の方が子宝を授かったとの情報もあります。



2 地域住民の意向

現在、私たちを取り巻く環境は、少子高齢社会の急速な進行に加え、国や自治体の厳しい財政運営や長引く経済情勢の低迷、さらには、東日本大震災からの復興・復旧など、あらゆる面で厳しい社会情勢となっています。

北佐原地区においても、今後、地域の子どもたちや高齢者をどう支えていくか、あるいは災害時にどう対応していくかなど、様々な課題が山積しつつあります。

この地域に住む私たちは、その現実を知り、それに伴う将来を見据え、未来の子どもたちへ豊かな地域を守り、引き継ぐために、今できることから取り組みを始めることが必要となります。

そこで、本協議会では、私たちが願う将来の北佐原地区はどうあるべきか、今後取り組むべき活動等について、次のとおり、「第1回地区別まちづくり座談会」及び「住民まちづくりアンケート調査」を実施し、地域の多くの皆さんから寄せられた意見を参考にして、私たちが暮らす北佐原地区の今後のあり方を検討することとしました。

■ 第1回地区別まちづくり座談会

会場	長島会館	荒川公会堂
開催日時	平成24年5月15日（火） 午後7時～9時	平成24年5月17日（木） 午後7時～9時
地区	筈島、長島第1、長島第2、 中洲、篠原新田	向津、砂場、荒川、野間谷原、 石納
参加者数	20名	23名
内 容	6～8ページのとおり ※開催結果の詳細については、資料編4～16ページ参照	

■ 住民まちづくりアンケート調査

（1）調査期間：平成24年4月中

（2）回答者数：958名

（3）調査結果：調査の結果と分析については、9～18ページのとおり

※回答者からいただいた具体的な意見等については、資料
編 17～28ページ参照

第1回北佐原地区別まちづくり座談会 開催結果

1 目的

地域まちづくり計画の策定過程において、住民とともに地域の課題や目指すべき将来像、地域自らが取り組むべき具体的活動内容等を明らかにし、共通理解を得ることを目的に、地区を2グループに分けて、それぞれ座談会を開催する。

さらに、座談会を契機に、今後の協議会活動への理解・協力を求める。

2 参加者

協議会委員

3 内 容

参加者を、5～7人程度の班に分けて、以下のテーマについてワークショップ形式で開催する

テーマ1：「地域の現状・課題について」

- “気になる現状”（困っていること・地域の弱み）
- “好ましい現状”（良いところ・地域の強み）

テーマ2：「地域で取り組む具体的な活動内容について」

⇒ テーマ1を踏まえ、“今後、自分たちでやってみようと思うことは？”

4 開催日時・場所

地区分類	日 時	場 所
筈島、長島第一、長島第二、 中洲、篠原新田	5月15日（火） 午後7時～	長島会館
向津、砂場、荒川、野間谷原、 石納	5月17日（木） 午後7時～	荒川公会堂

第1回地区別まちづくり座談会での主な意見

■気になる現状

【防災・防犯・交通安全】

- ・防災対策が不十分（災害時の対応が不安）
- ・水田の蛇口器具の盗難が多い
- ・消防団員の不足が懸念される
- ・速度超過や運転マナーの悪い車が走行して、危険を感じる

【健康・高齢者福祉】

- ・高齢化が進んでいる（老人が多い）
- ・一人世帯、高齢者世帯の見守りが必要

【生活環境】

- ・ごみのポイ捨て、不法投棄がある
- ・PTA廃品回収の担い手が少ない地区が出てきている

【子ども・教育】

- ・少子化が進んでいる（子どもが少ない）
- ・外で遊ぶ子どもを見かけなくなった
- ・どこの子か分からなくなっている

【住民交流・地域コミュニティ】

- ・隣近所の交流が少なくなっている
- ・行事等の役員がなかなか決まらない
- ・地域活動に参加する人が少ない

【産業】

- ・農業者の高齢化、後継者不足が進行
- ・若者の雇用場所がなく、流出している

【その他】

- ・バスを利用したくても本数が少なく不便
- ・いこいの家の復旧が遅れている

■好ましい現状

【防災・防犯・交通安全】

- ・「交通安全協会」、「交通安全母の会」、「防犯パトロール隊」等が連携し、積極的に活動している
- ・通学路の草刈りをしている
- ・消防団が充実している

【健康・高齢者福祉】

- ・高齢者が元気に暮らしている
- ・週1回高齢者の集まりがある

【生活環境】

- ・自然環境に恵まれた住みやすい地域
- ・十字路の草刈りを年1回している
- ・神社お寺の清掃をしている

【子ども・教育】

- ・子どもは元気で、挨拶が良くできる
- ・地域が小学校に協力的である
- ・教育への住民の関心が高い

【住民交流・地域コミュニティ】

- ・地域のまとまっていて、共同作業も効率的に実施され、いい成果が出ている
- ・隣近所の助け合いの精神が残っている
- ・他地区より区長会を中心に地域がよくまとまっている

【その他】

- ・子授かり、安産など砂場観音様のご利益が大きい

■今後、取り組むべき活動や要望など

【防災・防犯・交通安全】

- ・防犯パトロールの実施（組織化）
- ・地域の防犯を全地区で考える
- ・車にマグネットステッカーを貼り付ける
- ・危険箇所の把握
- ・安全、安心マップづくり
- ・避難場所、非常食備蓄の検討

【健康・高齢者福祉】

- ・グラウンドゴルフ大会の継続
- ・隣近所で高齢者を見守っていく
- ・高齢者を毎月見守る安全、安心システムをつくる
- ・高齢者が安心して暮らせる地域にする

【生活環境】

- ・地域ぐるみの廃品回収を継続する
- ・地域全体で美化活動を実施する
- ・ポイ捨て、不法投棄防止パトロールの実施
- ・通学路等の草刈り
- ・地区一斉ごみ拾い
- ・年1回全員参加のごみ拾い

【子ども・教育】

- ・公会堂で子どもたちが遊べる環境づくり
- ・子ども会まつりの開催
- ・子どもたちの健全育成のため、「林間学校」を今後も継続していきたい
- ・地域の大人が子どもにマナーを教える
- ・昔の遊びを通じた子どもと大人の交流を図る

【住民交流・地域コミュニティ】

- ・グラウンドゴルフ大会
- ・盆踊り大会の復活
- ・地域で助け合うことができるシステムを作っていく（弱者支援等）
- ・子どもから高齢者までみんながコミュニケーションを取れる場づくり
- ・北佐原全体で取り組む行事（遊び等）を考え、人々の交流を作っていく
- ・地域活動を担うリーダーの育成

【産業】

- ・集落営農化、農機具の共同利用など農業の話題を話し合える場づくり
- ・北佐原地区で特産物をつくる

【その他】

- ・子どもたちが遊べる公園や県道沿いに歩道を作ってほしい
- ・自分でできることは自分でやるという意識を持つべき

北佐原まちづくりアンケート調査の結果と分析

1 アンケートの概要

(1) 目 的

北佐原まちづくり計画を策定するにあたり、地域住民一人ひとりの意見を反映させるため、本地域に在住する住民に対し、アンケート調査を実施した。

(2) 実施時期

平成24年4月

(3) 実施主体

北佐原まちづくり協議会

(4) 対 象

北佐原地区の高校生以上の住民

※2人以上の世帯は2部、単身世帯は1部調査票の記入を依頼

(5) 方 法

配布・回収とも23年度区長連合会の協力を得て実施

(6) 回答者数

調査対象世帯数：738世帯

回収票数：958票

(7) 集計結果記載方法

アンケートは、「選択方式」を採用しており、「複数選択」を可としている設問があります。その場合の比率は、回答者数に対する割合を表記しています。

問1. お住まいは？

	回答数	割合
向津	102	10.6%
砂場	127	13.3%
荒川	142	14.8%
筈島	94	9.8%
長島第一	85	8.9%
長島第二	102	10.6%
中洲	154	16.1%
篠原新田	106	11.1%
野間谷原	29	3.0%
石納	17	1.8%
計	958	100.0%

問3 年齢は？

	回答数	割合
16～18 歳	5	0.5%
19～29 歳	48	5.0%
30～49 歳	200	20.9%
50～64 歳	348	36.3%
65～74 歳	130	13.6%
75 歳以上	83	8.7%
無回答	144	15.0%
計	958	100.0%

問2 性別は？

	回答数	割合
男性	438	45.7%
女性	375	39.1%
無回答	145	15.1%
計	958	100.0%

問4 職業は？

	回答数	割合
農業	161	16.8%
自営業	81	8.5%
会社員・公務員など	248	25.9%
パート・アルバイト	102	10.6%
専業主婦	86	9.0%
学生	13	1.4%
無職(主婦を除く)	108	11.3%
その他	5	0.5%
無回答	154	16.1%
計	958	100.0%

問5 住んでいる理由は？

	回答数	割合
生まれも育ちも北佐原地区	484	50.5%
結婚した相手が北佐原地区出身者だった。	254	26.5%
新たな居住地として北佐原地区に住んでいる。	62	6.5%
その他	5	0.5%
無回答	153	16.0%
計	958	100.0%

○「生まれも育ちも北佐原地区」が約半数、「結婚した相手が北佐原地区出身者だった。」と「新たな居住地として北佐原地区に住んでいる。」と回答した、元々は北佐原出身ではない人が約1／3いた。

問6 住みやすいと思う？

	回答数	割合
思う	483	50.4%
思わない	181	18.9%
わからない	140	14.6%
無回答	154	16.1%
計	958	100.0%

○約半数の方が「住みやすい」地域と回答しているが、「思わない」と回答した方も2割弱いた。
 ○50歳以上では半数以上が「住みやすい」と回答しているが、逆に、49歳以下の人で「住みやすい」と回答したのは、半数に至らず、年齢が若くなるにしたがって「住みやすい」と回答する人の割合が減っている。

問7 住み続けたいと思う？

	回答数	割合
ずっと住んでいたい	466	48.6%
当面は住みたい	183	19.1%
いずれは他地域に移りたい	38	4.0%
わからない	112	11.7%
無回答	159	16.6%
計	958	100.0%

○全体の2／3以上の方が北佐原地区に住み続けることを希望している。
○「いずれは他地域に移りたい」と北佐原地区からの転出の意思をはっきりと示している人も、38人(4%)いる。

問8 子や孫に住んでほしいと思う？

	回答数	割合
ずっと住んでほしい	320	33.4%
他地域に住んでもよい	205	21.4%
若いうちは他地域でも構わないが、いずれは住んでほしい	160	16.7%
わからない	115	12.0%
無回答	158	16.5%
計	958	100.0%

○子や孫にも北佐原地区に住んでほしいと思っている人が、約半数ですが、他地域に住んでもよいと思っている人も約2割いる。

問9 地域の将来を考えるうえで、特に重視すべきことは？（複数選択）

	選択項目	選択数	全回収数に対する割合
1	震災、水害、火災などに対する防災対策	439	45.8%
2	近所や地域のつきあい・助け合い	401	41.9%
3	子どもの安心・安全の確保	326	34.0%
4	通院や買い物など“移動手段”の確保 (バスなどの公共交通の充実)	296	30.9%
5	高齢者の生きがいや健康づくり	268	28.0%
6	雇用の場の確保	239	24.9%
7	治安維持のための防犯対策・防犯活動	238	24.8%
8	住民の健康維持や介護予防のための取組み	186	19.4%
9	田園景観、水辺や緑などの自然環境の保全	184	19.2%
10	子育て支援活動の充実	170	17.7%
11	農業後継者の育成(農業の振興)	165	17.2%
12	地域の清掃活動、ごみのポイ捨て解消などによる生活環境の改善	124	12.9%
13	青少年の健全育成	116	12.1%
14	地域を担う人材の育成	104	10.9%
15	祭りやイベント、スポーツ等を通じた地区住民の交流	103	10.8%
16	個人のプライバシー	87	9.1%

17	ボランティア活動の推進	55	5.7%
18	歴史や文化の保存・継承	42	4.4%
19	その他	15	1.6%

- 全体では、「震災、水害、火災などに対する防災体制の充実」を求める人が約46%いることから、日頃の防災訓練や災害時の援護体制づくりなどによる自然災害への不安解消の検討が必要と思われる。
- 次いで、「近所や地域のつきあい・助け合い」を重視する人が約42%、「子供の安心・安全の確保」を重視する人が34%いることから、地域内の誰もが顔見知りで、気軽にコミュニケーションが取れる地域社会（コミュニティ）の確立により、「安全・安心なまちづくり」、「安心して地域で子育てができる環境」などを求めているものと思われる。
- また、「移動手段の確保」、「高齢者の生きがいや健康づくり」など、高齢者に関係する取組みを重視すべきとの回答も多く、今後、地域における高齢者福祉をどのように展開していくか検討が必要と思われる。

問10 少子化について、地域で、できることは何だと思いませんか？

	選 択 項 目	選択数	全回収数に対する割合
1	若者が地域に定着できるよう、魅力ある地域づくり	423	44.2%
2	地域全体で、北佐原地区の子供たちを育て、見守り、子育てがしやすい環境づくり	315	32.9%
3	子ども時代に地域の自然の中で遊び、学ぶことにより、地域への愛着心を育む	144	15.0%
4	地域行事を通じた地域住民のコミュニケーションを充実させ、人と人とのつながりを大切にした地域づくり	127	13.3%
5	少子化対策は全国的に行われていても解決に至っていない難しい問題であるので、地域でできることはない	91	9.5%
6	わからない	85	8.9%
7	その他	29	3.0%

○少子化問題では、「若者が地域に定着できるよう、魅力ある地域づくりを行う」が、どの年代で最も多く、次いで「地域全体で、北佐原地区の子供たちを育て、見守り、子育てがしやすい環境づくりを行う」が32.9%と多くの意見となっている。

○また、約1割ではあるが、地域でできることはないと思っている人もいる。

問11 地区の安全対策として、地域で行えば良いと思うことは何ですか？

	選 択 項 目	選択数	全回収数に対する割合
1	災害時における要援護者の把握と援護体制づくり	361	37.7%
2	子どもの通学の際の見守り活動	350	36.5%
3	高齢者世帯の健康確認を含めた見守り活動	324	33.8%
4	地区全体で毎年、防災訓練を行い、地震などの自然災害や火事などに備える	185	19.3%
5	高齢者を対象にした交通安全教室や防犯教室の開催による意識啓発	102	10.6%
6	安全・安心対策は各自で行うことであり、地域が行うことではない	37	3.9%
7	その他	10	1.0%

○安全対策については、「災害時における要援護者の把握と援護体制づくり」、「子どもの通学の際の見守り活動」、「高齢者世帯の健康確認を含めた見守り活動」がそれぞれ3割を超える意見となっており、主に日常から見守り等が必要と思われる者に対する活動を支持する意見が多かった。

問12 高齢者福祉に関することで、あったらいいなと思うサービス(事業)はありますか？

	選 択 項 目	選択数	全回収数に対する割合
1	病院や買い物などへの送迎サービス	385	40.2%
2	趣味の活動の場など、多くの方とふれあえる機会の提供	271	28.3%
3	好きなときに集まり、交流ができる(交流サロンなど)の開設	253	26.4%
4	高齢者などを対象にした昼間の見守り活動	187	19.5%
5	健康維持や介護予防のための健康教室の開催	171	17.8%
6	高齢者と同居していないので、わからない	30	3.1%
7	その他	9	0.9%

○高齢者福祉については、「病院や買い物などへの送迎サービス」が約4割と最も高く、いわゆる交通弱者といわれる高齢者の移動手段の確保が課題となっている。

○また、「趣味の活動の場など、多くの方とふれあえる機会の提供」、「好きな時に集まり、交流ができる(交流サロンなど)の開設」の意見も比較的多く、高齢者の意思により自由に集える機会を望んでいる傾向も見られた。

問13 「まちづくり」のイメージは？

	回答数	割合
行政が主体的に進めるもの	118	12.3%
一部の人が行っているもの	57	5.9%
住民が主体的に行うもの	63	6.6%
住民と行政が協働で行うもの	466	48.6%
わからない	65	6.8%
無回答	189	19.7%
計	958	100.0%

問14 「住民参加」についての考えは？

	回答数	割合
何事にも積極的に参加したい	49	5.1%
内容や頻度等によっては、積極的に参加したい	184	19.2%
頼まれれば、可能な範囲で参加・協力したい。	359	37.5%
関心がない	38	4.0%
わからない	120	12.5%
その他	9	0.9%
無回答	199	20.8%
計	958	100.0%

○「住民と行政が協働で行うもの」が約半数と多く、協働によるまちづくりのイメージが少しずつ浸透しつつある。

○「積極的に参加したい」と回答した人が約24%、「頼まれれば可能な範囲で参加・協力したい」を含めると約62%の人がまちづくり活動に参加・協力したいと感じている。

問15 設立を知っていましたか？

	回答数	割合
知っていた	316	33.0%
知らなかった	474	49.5%
無回答	168	17.5%
計	958	100.0%

○「知っていた」が約3分の1に比べ、「知らなかった」が約半数となっており、協議会に対する住民への周知をさらに図っていく必要がある。

3 北佐原地区の主な課題

北佐原地区の現況及び地域住民の意向等を踏まえ、北佐原地区におけるまちづくりの主な課題について整理します。

(1) 少子高齢化への対応

- ・結婚しない人が増え、少子化が進むことにより、今後、自治会や消防団などの地域活動の担い手不足が懸念されることから、地域を担う後継者やリーダーの人材育成を進める必要があります。
- ・高齢により自ら自動車を運転出来ない人が増え、通院や買い物等日常生活において不便さを感じる高齢者世帯が増えることが予想されます。

(2) 安心・安全な地域の創出

- ・子どもや高齢者などが犠牲となる犯罪や交通事故が全国的に発生していることから、地域で子どもや高齢者を犯罪や事故からどう守っていくか検討する必要があります。
- ・東日本大震災により、道路や農地、住宅など大きな被害を受けた地区であることから、地震や水害などの自然災害への住民の不安を解消していく必要があります。

(3) 健康・福祉・子育て環境の充実

- ・高齢者の見守りの体制や生きがい作りの場があまりありません。
- ・子育て世代の親子を支援する環境があまりありません。
- ・全国的に見て、生活習慣病や成人病、認知症などが増える傾向にあることから、健康診断の受診や運動不足の解消など健康づくりに関する意識を高めていく必要があります。

(4) 地域コミュニティの再構築・住民交流の促進

- ・地区全体で集まる機会や、子どもたちとの交流の機会が少なくなってきており、家庭や地域で互いに支え合う力“絆”が弱くなっています。
- ・特に若い世代の地域行事や地域活動への参加が少なく、地域に対する関心や愛着、地域内の住民交流がさらに薄れていくことが懸念されます。
- ・地域内の行事など、今後も継続していくために、内容によっては、区の

枠を越えた取組みの統合などを検討していく必要があります。

- 昔ながらの慣習が、地域へのわずらわしさと感じている住民も一部いらっしゃいます。

(5) 環境保全・地域産業の活性化

- ごみのポイ捨てや不法投棄、ごみの分別の不徹底が見受けられるなど、緑豊かな自然景観が阻害されることが懸念されます。そのため、豊かな自然の保全・活用を図るとともに、清掃や美化活動の推進が必要です。
- 農業従事者の高齢化や農業経営者が減少していく中で、今後、休耕田や耕作放棄地が増加していく事が予想され、農地環境の崩壊につながる恐れがあります。今後は、担い手や後継者の育成を進めていく必要があります。



4 香取市総合計画

計画の構成と期間	基本構想：（初年度）平成20年度～（目標年度）平成29年度 基本計画：前期（20～24年度） 後期（25～29年度） 実施計画：単年度ごとの行動計画として作成
基本理念 （まちづくりの基本的な考え方	市民協働による 暮らしやすく 人が集うまちづくり ・「市民協働」とは、市民と行政が対等の立場で一緒になって考え、責任も共有しながら、ともに理想とするまちを築き上げていく取り組み。 ・「暮らしやすく」とは、基盤整備から環境、福祉など様々な意味で満足できる市民生活が送れることを目的とします。 ・「人が集う」とは、魅力あるまちづくりを推進することにより、定住人口の減少を食い止め、また交流人口の拡大を図る。
将来都市像	元気と笑顔があふれるまち 一人ひとりの市民が輝く 活みなぎる やすらぎの郷 香取 ・「元気」とは、躍動感のある経済活動、人と人との交流などを通じて、みんなで創り上げていく、活気・にぎわいのあるまちの様子 ・「笑顔」とは、安全安心な暮らしを満喫でき、人と人との心の交流、繋がりが強い、快適で潤いのあるまちの様子 ・「一人ひとりの市民が輝く 活みなぎる やすらぎの郷 香取」とは、全ての市民が充実感を抱き、輝きながら暮らしていける「誰もが憩えるふるさと」を目指します。
基本目標	I 豊かさが実感でき、活力ある産業を育むまちづくり II 人と自然が共有し、快適で安心して暮らせるまちづくり III 住み慣れた地域で誰もが安心していきいきと暮らせるまちづくり IV 歴史と文化に包まれて、心豊かな人を育むまちづくり V 緑の中で、便利で暮らしやすい都市機能が充実したまちづくり VI 市民と行政がともに築く、自立したまちづくり

第3章 北佐原地区が目指す将来像

1 まちづくりの全体テーマ

北佐原地区の目指すまちづくりのテーマを次のように設定します。

■北佐原地区の現況

■地区住民の意向

■北佐原地区の主な課題

- 1) 少子高齢化への対応
- 2) 安心・安全な地域の創出
- 3) 健康・福祉・子育て環境の充実

- 4) 地域コミュニティの再構築
住民交流の促進
- 5) 環境の保全・地域産業の活性化

■香取市総合計画

【基本理念】“市民協働による 暮らしやすく 人が集うまちづくり”

【将来都市像】 “元気と笑顔があふれるまち”

一人ひとりの市民が輝く 活みなぎる やすらぎの郷 香取

【まちづくりの全体テーマ（将来像）】

“みんなであつろう
心豊かですみよい北佐原 “

2 協議会の基本理念

北佐原まちづくり協議会は、地区が抱える課題を解決し、目指す将来像を実現するため、次の4つを本協議会の基本理念として掲げます。

- (1) 地域の縦割りをなくし、自治会や各団体等の横のつながりを大切にします。
- (2) 住民同士のつながりを大切にした、誰でも参加できる活動や楽しく交流できるイベントなどに取り組みます。
- (3) 幅広く地域の声、女性の声を活動に反映します。
- (4) みんなで協力し、一人に負担をかけないようにします。

3 将来像実現のための活動方針

北佐原地区の将来像を達成するため、本協議会が取り組むべき内容について、アンケート調査やまちづくり座談会での住民の皆さんからの意見をもとに、次の6つの活動方針に整理しました。

☆北佐原まちづくり協議会 活動方針

- (1) 危険箇所の把握や防災意識の啓発で災害に強い地域づくり
- (2) 各種団体が連携し犯罪や交通事故のない安全な地域づくり
- (3) 身近な場所で交流しながら暮らせるコミュニティづくり
- (4) 次代を担う子どもたちを健全に育む地域づくり
- (5) みんなが健康でいきいきと暮らし続けられる地域づくり
- (6) 豊かな自然環境と農業を守り、次代につなげる地域づくり

第4章 将来像の実現に向けた施策

1 活動方針及び基本施策

☆活動目標1：危険箇所の把握や防災意識の啓発で災害に強い地域づくり
自主防災組織の設立・活動の支援及び防災訓練などを実施し、地域住民の連携と協調が図れる災害に強い地域づくりを展開します。

基本施策と活動例	関係団体
①危険箇所の把握 自治会などが中心となって、地域内の災害時における危険箇所などの把握を行い、関係機関とともに改善に努めるとともに、地域住民に注意を呼びかける。 また、防犯や交通事故防止に係る危険箇所を含め、「（仮称）北佐原小学校区あんぜんマップ」を作成するなどし、各世帯に配布します。	区（区長連合会）、消防団、住民、等
②自主防災組織の整備 各区における自主防災組織の設立を推進し、防災訓練、防災資機材の点検、防災パトロール等の自主防災活動を積極的に支援します。	区（区長連合会）、消防団、行政、等
③防災意識の啓発 防災に関する講習会や防災訓練の実施、啓発資料の配布などにより、防災意識の高揚を図ります。 【活動例】 ・地区防災訓練（または防災運動会）の実施	区長連合会、消防団、学校PTA、住民、行政、等
④災害時の援助体制の検討 地域内の一人暮らしや高齢者世帯などの災害弱者に対する支援・協力体制づくりを行います。 【活動例】 ・災害時要援護者登録制度の検討 ・地域間緊急連絡体制の整備、災害マニュアルの作成	区（区長連合会）、民生委員、高齢者クラブ、住民、等

☆活動目標2：各種団体が連携し犯罪や交通事故のない安全な地域づくり

一人ひとりの防犯意識及び交通安全意識を高め、誰もが安全に暮らせる、犯罪や交通事故のない環境づくりを行います。

基本施策と活動例	関係団体
①通学時見守り活動の推進 子どもたちの通学時の見守り活動を地域で行い、安心して通学できるようにするとともに、子どもと地域の方々との交流を深めます。 【活動例】 ・登下校見守り隊の結成・活動支援	PTA、学校、交通安全協会、防犯パトロール隊、住民、等
②防犯パトロール活動の推進 青色回転灯装着車の利用や“散歩パトロール”の実施など各種団体や住民が連携し、継続的で効果的な防犯パトロールを実施します。 【上記以外の活動例】 ・防犯パトロール隊の結成（拡大）、活動支援 ・散歩パトロール協力の呼びかけ	防犯パトロール隊、各種団体、住民、警察、等
③危険箇所の把握 自治会などが中心となって、防犯や交通事故防止の観点から危険箇所などの把握を行い、関係機関とともに改善に努めるとともに、地域住民に注意を呼びかける。 また、防災上の危険箇所を含め、「（仮称）北佐原小学校区あんぜんマップ」を作成するなどし、各世帯に配布します。	区（区長連合会）、消防団、住民、等
④防犯・交通安全に関する意識の啓発 防犯や交通安全に関する研修会等の開催や啓発資料の配布、標語の募集、立て看板の設置などにより、防犯意識の高揚を図ります。	住民、警察、行政、等
⑤声かけ（あいさつ）運動の展開 近所付き合いや地域住民同士の交流を大切にするとともに、自治会活動へ積極的に参加し、地域ぐるみで見守り活動や声かけ運動を進めます。	区（区長連合会）、住民 等

☆活動目標3：身近な場所で交流しながら暮らせるコミュニティづくり

住民同士の交流の機会を提供し、住民相互の交流と相互理解を深めるとともに、区や各種団体の連携体制をさらに強化することにより、地域コミュニティの再構築を目指します。

基本施策と活動例	関係団体
①住民交流イベントの充実 地域のあらゆる人が参加しやすい住民交流イベントを開催・支援することにより、住民相互の交流を深めます。 【活動例】 ・夏祭り（盆踊り）、文化祭、音楽祭などのイベント開催	区長連合会、各種団体、住民、等
②スポーツ・レクリエーション活動の推進 スポーツ・レクリエーション活動を推進し、各自の健康と体力を増進します。 【活動例】 ・グラウンドゴルフ大会等の各種スポーツ大会の開催	区長連合会、各種団体、住民、等
③広報紙の発行 各団体や各区の行事や住民からの投稿なども掲載した広報紙の発行を目指します。協議会の活動を周知するとともに、情報の共有化を図り、相互理解を深めます。	区（区長連合会）、各種団体、住民、等
④区長連合会や各種団体との連携の強化 区長連合会や各種団体との意見交換を定期的に行い、各団体の活動計画・実績をもとに、地区全体の活動調整を行います。 【活動例】 ・「（仮称）北佐原まちづくり懇談会」の開催	区長連合会、各種団体、住民、等

☆活動目標４：次代を担う子どもたちを健全に育む地域づくり

地域で子どもたちを育み、安心して子育てができる環境を創出するとともに、世代間交流等を通して地域住民とのふれあいや信頼関係を育みます。

基本施策と活動例	関係団体
①子どもたちの地域参加の推進 地域を良くしたいという気持ちから子どもたち自らが自分たちに行えることを考え、取り組むことを家庭・地域・学校の三者が連携し、支援します。 【活動例】 ・小中学生による定期的清掃美化活動、花植え運動、高齢者や保育所児童との交流 など	区（区長連合会）、小学校、PTA、住民、等
②青少年の健全育成活動の推進 児童、生徒数の減少などにより、青少年の各種活動に支障をきたすことが懸念されることから、地域で子ども会や青少年相談員の活動などを支援します 【活動例】 ・子どもたちを対象とする宿泊のキャンプ体験学習 など	青少年相談員、子ども会、区（区長連合会）、住民、等
③子どもたちとの交流の推進 地域住民が趣味や特技等を生かした子どもを対象とする地域講座を開設するなど世代を通じ交流を深める事業を実施します。 【活動例】 ・昔の遊び教室、手作り玩具教室、世代間交流イベント等の開催	区（区長連合会）、小学校、PTA、住民、等

☆活動目標5：みんなが健康でいきいきと暮らし続けられる地域づくり

高齢者が集う場づくり、健康づくりや生涯学習の機会を提供することにより、住民誰もが健康で、生きがいや充実感を持って暮らせるように、地域ぐるみで地域福祉と健康づくりを推進します。

基本施策と活動例	関係団体
①高齢者のふれあいの場づくり 高齢者が気軽に自由に集まり、談話や将棋などができる交流の場づくりを支援するとともに、地域の方々との交流を深めます。 【活動例】 定期的な高齢者の交流機会の提供	区（区長連合会）、民生児童委員、高齢者クラブ、住民、等
②高齢者の見守り活動の推進 一人暮らし高齢者等の見守り活動について研究し、地域全体の取り組みを進めます。 【活動例】 - 高齢者世帯への声かけなど見守り活動の実施 - 高齢者福祉活動に係るボランティア育成、支援	
③生涯学習を支援する仕組みづくり 誰もが気軽に参加できる趣味の講座を開設し、それをきっかけにサークル化に結び付けたり、発表の機会や場を設けるなど、趣味を通じた仲間づくりを支援します。 【活動例】 - 趣味教室、地区文化祭（展覧会・物産展）の開催 - 地区文化（趣味）サークルの立上げ	区長連合会、各種団体、住民、等
④健康づくりの実践の場づくり ウォーキング、グラウンドゴルフなど気軽に取り組める健康づくりの実践の場づくりを支援し、住民の健康増進を図ります。 【活動例】 健康スポーツ教室、健康体操、健康教室などの開催	

☆活動目標6：豊かな自然環境と農業を守り、次代につなげる地域づくり

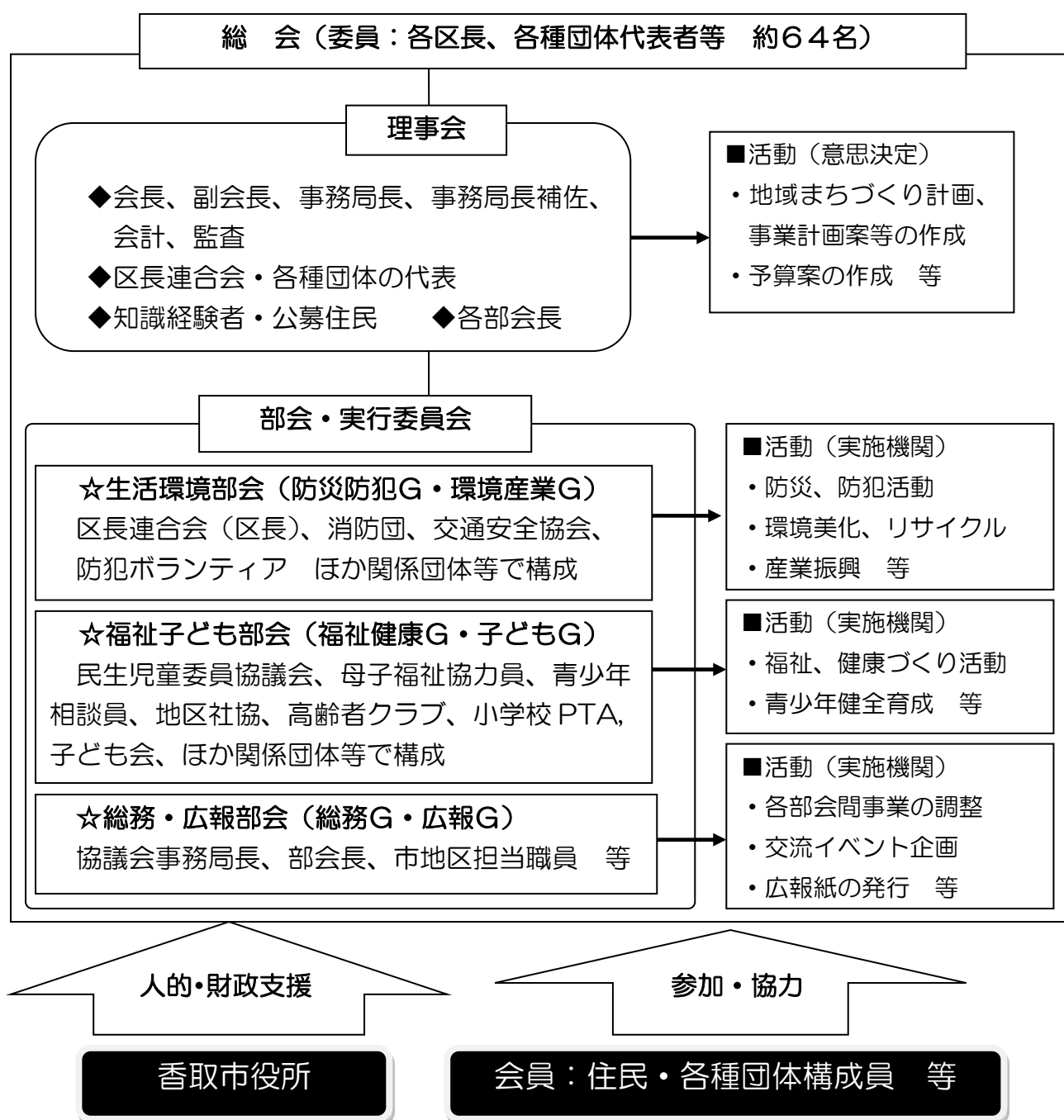
地区の豊かな自然環境と主産業である農業を守り、次の世代に伝えるため、自然や河川景観などの保全活動や地域の環境美化を進めるとともに、農業後継者の育成など農業の振興を図ります。

基本施策と活動例	関係団体
①環境保全運動の推進 ふるさとをきれいにすることによって、住みよいまちづくりと地域住民の交流を深めます。 【活動例】 ・クリーン作戦（定期的美化清掃活動）の実施 ・通学路等の草刈り、障害となる木枝の伐採 ・花づくり、植樹運動の実施	区（区長連合会）、各種団体、住民、等
②リサイクル活動の推進 資源ごみ回収や不用品の再利用等のリサイクル活動とごみの減量化に取り組むとともに、まちづくり活動の財源を確保します。 【活動例】 ・小中学校廃品回収活動の支援 ・バザー、フリーマーケットの開催	
③不法投棄防止運動の実施 定期的な巡回、監視、PR等を行い、不法投棄やごみのポイ捨ての防止を図ります。 【活動例】 ・ポイ捨て禁止運動の展開（マナー向上運動）	区（区長連合会）、住民、等
④農業の振興 農業後継者の育成や担い手を確保するため、地域ぐるみで農作業に従事しやすい体制づくりや取組みについて、定期的に意見交換を行いながら検討していきます。 【活動例】 ・農機具の共同管理、農作業の受委託制度 等の検討	事業者、住民、行政 等

7 推進体制

北佐原まちづくり協議会は、地域の課題解決のために、地区内の住民や各種団体が話し合い、調整、実践していく場として位置づけ、住民や各種団体等が互いの持ち味を活かしながら、横につながり合い、将来像や活動目標の実現に向けて、協働で計画を推進していきます。

■北佐原まちづくり協議会の組織構成図



おわりに

平成18年3月の合併により、香取市の行政区域は拡大しましたが、各地区においては、自治会や各種団体が主体となり、まちづくりに取り組んできた地域性があります。

まちづくり協議会（住民自治協議会）は、それらの地域性を尊重し、住民の皆さんが自発的に地域の課題に取り組むことができる仕組みであります。

住民アンケートでの回答の中には、災害時どう対応したらいいのかわからない、一人暮らし高齢者の生活が心配、通学路が危険、ゴミのポイ捨てが目立つなど、住民の方々から地域の課題について多くの意見をいただきました。

これらを地域の課題として捉え、北佐原地区一体となって考え、行動し、また行政と役割分担しながら連携・協力して地域課題を解決したり、地域の明るい将来を実現させるのがまちづくり協議会です。

『北佐原まちづくり協議会』は、本計画書に基づき、北佐原地区の目指す将来像の実現に向けて、住民どうしの絆を深め、皆さんの知恵と力をお借りしながら、今後の活動を進めたいと思いますので、住民の皆様のご理解とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



平成23年度第1回理事会



第1回計画策定委員会



まちづくり座談会（長島会館）



まちづくり座談会（荒川公会堂）



第2回計画策定委員会



平成24年度第1回理事会

北佐原まちづくり協議会 地域まちづくり計画策定経過

期 日	会 議 名 等	内 容 等
24年 3月14日	23年度第1回理事会	・ 地域まちづくり計画の策定について ・ 24年度補助金申請について
4月上旬	住民まちづくり アンケート調査	・ 北佐原地区内の全世帯、団体を対象に、地区の課題や今後、取り組むべき内容等に関するアンケート調査を実施
4月～5月	住民アンケート調査結果の集計・分析	・ まちづくりアンケート調査結果を集計するとともに、回答結果を分析
4月20日	第1回 計画策定委員会	・ アンケート集計・分析結果報告 ・ 活動方針、主な取組み等を検討
5月15日	地区別まちづくり 座談会（長島会館）	・ 地域の課題、今後取り組むべき活動等について、北佐原地区を2つのグループに分けて、ワークショップ形式で意見交換を実施 ・ 併せて、新規委員に対し、協議会の概要等について説明会を開催
5月17日	地区別まちづくり 座談会（荒川公会堂）	
5月28日	第2回 計画策定委員会	・ まちづくり座談会結果報告 ・ 協議会の活動方針、主な取組み等の確認 ・ 24年度事業及び推進体制等を検討
5月下旬	協議会だより第2号 (各戸配布)	・ アンケート調査結果等計画策定状況について地域住民へお知らせ
6月5日	協議会及び計画策定 委員会役員 会議	・ 部会設置等事業推進体制に係る打合せ
6月18日	24年度グラウンドゴルフ 大会開催に係る関係 者会議	・ グラウンドゴルフ実行委員会の設置等に関する検討
6月20日	24年度第1回理事会	・ 地域まちづくり計画(案)の協議 ・ その他総会提出議案に係る協議

地域まちづくり計画策定委員会設置要綱

（設置）

第1条 北佐原まちづくり協議会（以下「協議会」という。）の地域まちづくり計画を策定するため、地域まちづくり計画策定委員会（以下「策定委員会」という。）を設置する。

（組織）

第2条 策定委員会の委員は、協議会の委員の中から、協議会の会長が指名した者をもって組織する。

（所掌事務）

第3条 策定委員会は、第1条の目的を達成するため、次に掲げる業務を行う。

- （1） 地域まちづくり計画に係る調査及び研究に関すること。
- （2） 地域まちづくり計画の作成に関すること。
- （3） その他第1条の目的を達成するために必要な事項に関すること。

（委員長及び副委員長）

第4条 策定委員会に、委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長及び副委員長は、委員の中から、会長が指名する。
- 3 委員長は、策定委員会を主宰し、会務を総理する。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

（招集及び会議）

第5条 策定委員会は、委員長が招集し会議の議長となる。

- 2 策定委員会の会議に必要と認めるときは、会議に所属する以外の者の出席を求め意見を聴くことができる。

（会計）

第6条 策定委員会の経費は、市補助金及びその他の収入をもって充てる。

（委任）

第7条 この要綱に定めるもののほか、策定委員会の運営等に関し必要な事項は、委員長が定める。

附 則

- 1 この要綱は、平成24年3月14日から施行する。
- 2 この要綱は、策定委員会の設置の目的が終了した時点をもってその効力を失う。

地域まちづくり計画策定委員会

(敬称略)

No.	地区等	氏名	備考
1	向津	小林 佳敬	
2	砂場	林 和明	
3	荒川	石井 偉雄	委員長
4	筈島	高橋 正喜	
5	長島第一	宮増 守和	
6	長島第二	坂本 秀生	
7	中洲	久保木 明德	
8	篠原新田	石原 健生	副委員長
9	野間谷原	須賀 治	
10	石納	坂部 勝義	
11	女性	林 三千恵	副委員長
12		大山 美保子	

※ワークショップの開催にあたって

本日の座談会は、ワークショップ形式で開催します。

ワークショップでは、「参加者同士が創造的な発言を自由に行って意見交換をし、立場や意見の違いを相互に理解し合う中で、問題を解決するための合意形成を図っていくこと」に重点が置かれています。

このため、共通ルールとして、以下の基本原則に則って会議を進めます。

- 1) 禁止事項の3原則 — 「非難なし」、「肩書きなし」、「文句なし」 —
「非難なし」・・・意見を出し合う場面において、人の発言への非難を禁止
「肩書きなし」・・・参加者の肩書きは、意識しない。
「文句なし」・・・グチよりも課題解決に向けた話し合いを
- 2) 班編成 — 全員が発言できるよう少人数の班を編成します —
全員が発言できるよう参加者を8名程度の班に分けます。
- 3) 司会進行 — 各班の司会が議事を進めます —
司会者は、地区担当職員、又は支援センター職員が務めます。
司会者は、参加者の発言機会が均等に与えられ、それぞれの発言が平等に扱われるよう議事を進めます。
- 4) テーマごとに話し合い — 和やかな雰囲気の中で話し合います —
地域の課題や将来像、今後の取り組むべき活動等について、それぞれの参加者の年齢や社会的立場にとらわれることなく、対等な関係で話し合います。
- 5) 意見を出し合い、グループ化 — できる限り多くの（率直な）意見を —
できる限り多くの意見をいただくため、個人で考える時間を設定します。
フセン紙に各自の意見・提案などを書き込んだうえで、発言してもらいます。
また、そのフセン紙を模造紙に貼り、グループ化の作業をします。孤立した意見や対立する意見が出た場合でも、貴重な意見として尊重します。
- 6) 最後に、各班の話し合いの結果を発表 — 全員の共通理解を図ります —
参加者全員の共通理解を図るため、各班で話し合われた内容について、各班3分程度で発表します。

座談会（ワークショップ）の具体的な進行方法について

1 「地域の現状・課題について」

（１）“気になる現状” [困っていること・地域の弱み] ⇒ 赤色フセンへ

（２）“好ましい現状” [良いところ・地域の強み] ⇒ 青色フセンへ

各自意見を記入する。【１人 ５枚以上目標】 （約１０分）

地域の現状について、日頃から抱えている実感や思いなど意見を、“気になる現状”を赤いフセン紙に、“好ましい現状”を青いフセン紙に１項目ずつ簡潔に書き出す。（できるだけ具体的に）

■気になる現状は？（例）

地域活動に関わろうとする人が年々少なくなっている

■好ましい現状は？（例）

区長連合会の結束力が強く、地区が一つにまとまっている

※行政に要望するような、道路や施設整備等に関する意見は除く。

「地域の現状」について、フセンの内容を確認しながら、共通理解を図り、整理する。（約２０分）

- ・記入した意見を各自披露しながら、分野に分け、模造紙にフセンを貼り付けていく。分野ごとに見出しをつける。

【具体的な検討項目】

- ・安心、安全、防災、防犯
 - ・健康、高齢者福祉
 - ・生活環境（自然、ごみ、緑化、河川・水路、通学路等）
 - ・子ども（安全、教育、子育て、子ども会、世代間交流 など）
 - ・住民交流・地域コミュニティ（区や団体等の組織、運営のルール、スポーツ、レクリエーションイベント、あいさつ、雰囲気 など）
 - ・産業（農業、特産品、働く場、新たな産業の創出 など）
 - ・交通（鉄道・バス等、道路、利便性、自転車、歩道、安全性など）
 - ・文化、歴史（伝統文化、文化財、など） など
- ・抽象的な表現や単語のみの表現の時は、フセン貼り付け時に、進行役が適宜、質問等により補足を加え、具体的に記入する。
 - ・多分野に関係する意見は、主と思われる分野に貼り付けする。

2 「地域で取り組む具体的な活動内容について」

「今後、自分たちでやってみようと思うことは？」 ⇒ **黄色フセンへ**

- ・ 地域の特長をさらに伸ばすこと
- ・ 地域の課題解決のために必要なこと
- ・ 現在の活動を基に、続けて（発展させて）もらいたいこと

「地域の現状について」を踏まえ、地域で取り組む具体的な活動内容について、目指す将来像を実現するためには、地域においてどんな取り組みや活動が必要かについて、各自意見を黄色フセン紙に記入する。

■具体的な活動内容・取り組みテーマ（例）

災害の時など、地域で助け合うことができるシステムの構築

住民誰もが安全・安心して暮らせる
防犯活動の実施

魅力ある行事の開催など地域で集まる機会を増やす。

もっと地区の人々の参加を増やし、子どもの見守りを強化する

住民の健康づくりに継続して取り組める仕組みをつくる。

通学路の清掃や草刈りなど、もっと地域での環境美化活動を充実させる。

○具体的な（案）があれば、

「～のための活動（運動）として、定期的に（毎日・年1回）～をする。」

○具体的な（案）がなくても、

自分たちの地域を将来どのようにしていきたいかという「**地域の将来の姿**」について、「**☆☆☆な地域（になったらいいな!）**」などのような言葉でもOK

10年、20年後、地域がどうあるべきか、どうなら住みやすいかを想像する

「今後取り組むべき内容」について話し合う。お互いの意見を出し合う、聞き合う。（約20分）

- ・ 記入した意見を各自披露し、「地域の現状」で分類した分野ごとに、フセンを貼り付ける。

8時20分から各班の発表時間とするため、それまでに話し合いを終了する。

4 「地域の現状」、「今後取り組むべき内容」及び「地域の将来の姿」について話し合った概要を発表する。（各班5分以内）

- 各班で出された意見（主なもの、みんなが気が付いていなかったもの等）を分野ごとに発表する。
- なぜそのような意見になったのかを補足説明する。

北佐原 第1回まちづくり座談会 概要

1	安心・安全・防災・防犯について
現状・課題	【気になる現状】 ・（多）外灯やカーブミラーの配置が足りない ・外灯が少ないため、夜が暗いので、下校など防犯面の不安がある ・（多）水田の蛇口の盗難が多い ・コンビニの利用など見知らぬ人が多く地域内に入り防犯上心配である ・大型トラックが区内を走り、危険を感じることもある ・小学生の登下校時に見守る大人の姿があまり見られない ・防犯パトロール組織があるが活動内容がわからない ・犯罪の多様化や低年齢化が心配 ・通学路を運転する際の運転マナーの悪い母親等がいる ・小中学生の通学時に車の通行で危険なところがある ・見通しの良い交差点での車同士の事故が発生していて、通学中の児童を巻き込む可能性がある ・見通しが良すぎて危ない（交差点） ・長島街道（篠原～荒川）の車のスピードが速く、すれ違いが怖い センターラインが無く危険 ・高速等、成田を過ぎると暗くなる ・横断歩道がない。通学路の変更が必要である ・舗装された道が多く、お互いに先に行こうとするため、十字路でスピードを落とす車両が少ない ・防災対策が十分でない ・避難場所（高いところ）もない ・避難場所が指定されているが、非常食が準備されていない ・震災で破損した道路がそのまま危険 ・地震の被害が多く、またいつ地震が来るか心配 ・川が多いので水害の危険がある ・消防機庫の場所（長島第2、野間谷原）を変えてほしい ・若い人が少ないので、消防団の新入団員がいない（消防団員の高齢化も進んでいる） ・若い人が消防団に入りたがらない、消防団員の担い手が不足している

	【好ましい現状】 ・「交通安全協会」、「交通安全母の会」、「防犯パトロール隊」等が小学校と連携しながら積極的に活動している ・先輩方の指導が良く、消防団にまとまりがあって、充実している ・通学路の草刈りをしている ・大きな災害が少ない
今 後 活 動 す べ き 内 容	【今後取り組むべき具体的活動等】 ・巡回パトロール ・地域の防犯を全地区で考えていく ・防犯パトロールの組織化 ・防犯、環境の青パト隊の結成 ・蛇口盗難などに備え見守り隊を構成する ・パトロール車にマグネットのステッカーを取り付ける ・危険箇所の把握と安全・安心のためのマップづくり ・通学路に交通事故注意を喚起する看板等の設置 ・危険箇所の草刈を行い防犯、交通安全を図る ・消防団等を中心に夜警を強化する ・毎月10日のアクション10（交通パトロール）を継続していきたい ・通学路（道路、カーブミラー等）の清掃 ・防犯灯をもっと多く設置する ・旗振り（交通安全）をやる時間帯を子どもたちの帰る時間に合わせる ・保育園、小学校の母親に対する交通安全教室の開催 ・通学路や見通しの悪い十字路の草刈りへの住民参加 ・災害発生時、消防車で巡回する ・災害の場合、各家、各地区で情報を共有する ・老人・子供を守ることを考えていく事が必要となる ・避難場所の検討、非常食の備蓄 ・防災訓練の実施

	2 健康・高齢者福祉について
現 状 ・ 課 題	【気になる現状】 ・（多）高齢者世帯が多くなっている ・若者の流出により、老人だけの家が多くなっている ・独身者が多く、その人たちの老後が心配 ・一人暮らしの高齢者が増えている ・一人世帯（年齢に関係なく）または高齢者世帯が将来心配 ・高齢者の楽しみがない（グラウンドゴルフ以外のもの） ・高齢になって車の運転ができなくなったら買い物や通院が不安 ・高齢者が集まる場所、機会が少ない ・老人クラブがない ・老人が家に閉じこもり気味 ・高齢者が増えているので、何か楽しみがほしいのでは・・・ ・認知症の人が増えている ・高齢者配食サービスのボランティアが少ない ・独居や高齢者世帯の見守りが、月 1 回の民生委員による弁当配布時だけでは不十分 ・核家族化が進み一人暮らしの方も年齢に関わらず増えている 【好ましい現状】 ・参加者は少ないが、週 1 回高齢者の集まりがある（社協の催し） ・高齢者ふれあいクラブ（約 80 人）でグラウンドゴルフなど元気に活動している ・高齢者が元気（グラウンドゴルフ、旅行、体操等をやっている）

今後活動すべき内容	【今後取り組むべき具体的活動等】 ・（多）グラウンドゴルフ大会を継続していく ・“買い物難民” 対策を今から地域で検討すべき ・隣近所で高齢者を見守っていく ・市の各戸配布文書を回覧ではなく、直接配るなどして、組長も町内の高齢者の見守りに協力する ・認知症や介護予防への取組み ・老人クラブに代わる新たな仲間づくりを行う ・高齢者を毎月見守る安全・安心のシステムを構築する （名簿・地図等） ・高齢者が安心して暮らせる地域にする
------------------	--

3 生活環境について	
現状・課題	【気になる現状】 ・（多）道路や田んぼなどにゴミが多く捨てられている ・道路のごみのポイ捨てが気になる ・ごみ分別の徹底が必要 ・水神様の清掃があまりされていない ・釣り人のマナーが悪くゴミをポイ捨てしていく ・犬のふんの不始末が少なくない ・児童数の減少により、PTA廃品回収の担い手が少ない地区が出てきている 【好ましい現状】 ・（多）自然が豊かで、住民の人柄も良く、住みやすい環境 ・神社お寺の清掃をしている ・のどか ・筑波山がきれいに見える ・東京から釣りに来る人が「とてもよいところ」だと言っていた ・十字路の草刈りを年１回している ・自分が住んでいる地域のごみステーションは充実している
今後活動すべき内容	【今後取り組むべき具体的活動等】 ・地域ぐるみの廃品回収を継続する ・ごみのポイ捨て、不法投棄防止のためのパトロールを実施する ・地域全体で統一した美化活動を実施する ・神社の清掃を定期的に行う ・ゴミステーションの清掃 ・県道沿いの草刈り（自分のところと隣接しているところ） ・水路の草刈り（自分のところ） ・草刈りを日時を合わせて一斉に行う ・通学路の草刈りなど地域での美化活動を充実させる ・地区一斉ごみ拾い（年３回程度）の実施 ・地域でごみ拾いを行う ・廃品回収地区に回収場所を設けて地域の高齢者も一緒に行う ・「農地・水・・・環境保全事業」を各地区の参加を拡大する ・国定公園水郷地域の一角である長島川沿岸の清掃 ・自分たちが住む地域をきれいに保つため、年数回全員参加型でごみ拾い等の活動により絆を深める

4 子ども・教育について	
現状・課題	【気になる現状】 ・（多）子どもの数が少なくなってきていて、今後が心配 ・寡婦（夫）世帯が少ない（小学校児童の約３割？） ・跡継ぎがなく、心配 ・外で子どもたちが遊んでいる姿をあまり見なくなった ・子供の遊び場がない ・地域の中でも、どこの子ともかわからなくなっている ・中学校が遠い ・休みの日に学校の校庭を解放して欲しい ・未婚者が増加するとともに少子化が進んでいる ・地区内で子供の遊び場がない（生活環境の変化、集まる場所がない） 【好ましい現状】 ・北佐原小は、いい学校（目が行き届き、何でもやらせてもらえる） ・小学校ＰＴＡの賛助会員（会費：１,０００円）が多く、教育への住民の関心が高いことを示している ・子どもが元気 ・顔を合わせれば、大人も子どももよく挨拶をする ・子どもは、挨拶がきちんとできている ・地域が小学校に対して協力的である ・（多）小学生の登下校時における挨拶がよくできている ・北佐原小ＰＴＡ、子供会が積極的に活動している
今後の活動内容	【今後取り組むべき具体的活動等】 ・公会堂で子どもたちが遊べる環境づくり ・子どもたちの健全育成のため、今後も林間学校は続けていきたい ・地域の大人が子どもにマナーを教える ・子供会まつり ・昔の遊びを通じて子どもと大人の交流を図る

5 住民交流・地域コミュニティについて

現状・課題

【気になる現状】

- ・地域の行事が多いと、若い人たちが住みにくいと感じるのではないか
- ・大人で、挨拶しない人も多い
- ・近隣付き合いが希薄になってきて、今後付き合いがなくなるのが心配
- ・地域を守るボランティアをする人がいない
- ・老人クラブがなくなっている
- ・地区役員をやらない人が増えた
- ・行事の役員がなかなか決まらないので開催できない
- ・地域の行事に参加する人が少ない
- ・家事など個人で大変なので行事の調整などに手が回らない
- ・地域への関心が薄れてきている
- ・酒を飲みながらコミュニケーションを図る機会が少なくなってきた
- ・昔からの行事が少なくなっている
- ・区長の危機感が薄い
- ・けいやく・庚申様の開催している区が少なくなってきた
- ・若者の出会いの場が欲しい
- ・年代を越えた交流がなくなっている
- ・隣近所で本当に困っていることは話したがない
- ・上下関係を嫌う人が増えている
- ・町内方との会話の機会が少なくなった
- ・同年代の人が少ないため地区のリーダーも少ない

【好ましい現状】

- ・（多）地域のまとまりが良く、共同作業も効率的に実施され、いい成果が出ている
- ・隣近所の助け合いの精神がまだ残っている
- ・グループごとのまとまりが良い
- ・地域の活動は区長会を中心として市内他地区よりよくまとまっている
- ・区の行事に参加、協力してくれる
- ・近所付き合いを大切にしている
- ・住民交流、子供同士の交流がある

今後取り組むべき活動内容	【今後取り組むべき具体的活動等】 ・ 小学校の運動会を住民参加の大会としていく ・ 盆踊り大会の復活 ・ グランドゴルフ大会の継続 ・ ふるさとの祭りづくり ・ 趣味を自慢できるイベントの開催 ・ めでたいことを地域で祝う ・ 小学生と地域住民との交流 ・ みんなで参加できるいろいろな行事の企画・運営 ・ 子どもから大人、高齢者までみんながコミュニケーションを取れる機会や場づくり ・ セケ所参り、新年会（向洲・野間谷原） ・ 人々が集まる「場」・「機会」を作る ・ 地域ネットワーク会議の活性化（今は年 1 回） ・ 婚活の支援、地区内に結婚相談の場をつくる ・ 地区ごとに、各家々の連絡網を作成できればいいと思う ・ 各種団体の相互の交流・親睦を深める ・ 多くの人に参加して何かをやることが交流になる ・ 北佐原全体で取り組む行事（遊び等）を考え人々の交流を作っていく ・ 地域全体で朝のあいさつ運動を行う ・ まちづくり協議会内で各地区、町内の集会ができるよう幹事的な役割を作る ・ （多）地域で助け合うことができるシステムを構築する。（弱者支援等） ・ 災害時に対応するリーダー集団を地区ごとに作る ・ リーダーの育成を図る
---------------------	--

6 産業について	
現状・課題	【気になる現状】 ・農耕具の購入費が高い、米価が安いなどの理由から、農業の後継者が少なくなっている ・他地区の所有者の田が適正に管理されていない ・跡取りが市内に住まない ・後継者がいない ・80 歳代農業 ・農地をどうするか、誰が耕作するのか ・耕作放棄地（荒地）が増えてきている ・農業者の高齢化に歯止めがかからない ・地域の農業のビジョンがなく担い手がいない ・工業団地がなく勤務先が少ない ・若い人の就職先がない ・地域的に産業がない ・北佐原から通える仕事に限られる
今後の活動	【今後取り組むべき具体的活動等】 ・集落営農化を考えている農業者もいるので、農業の話題を話し合える機会を作ればよいと思う ・農機具の共同利用など農家の話し合いの場を設ける ・北佐原地区で特産物をつくる
7 交通について	
現状	【気になる現状】 ・バスを利用したくても、本数が少なく不便 ・交通手段がなく通勤通学に困る ・循環バスが水曜日と土日運休となっていて不便
8 文化・歴史	
現状	【好ましい現状】 ・（多）子授かり、安産など砂場観音様のパワー（ご利益）が大きい（8割の人が子どもを授かれる）

9 その他	
現状	【気になる現状】 ・ふれあい公園の整備、利用、何か物足りない ・学区再編 ・市内に産婦人科の病院がない ・北佐原いこいの家が災害により使用できない
課題	【今後取り組むべき具体的活動等】 ・まちづくりを形骸化しないように ・自分でできることは自分でやるという意思をもっともってほしい ・(多) いこいの家を早く修理して使えるようにしてほしい（給食作りボランティア全員の希望）
将来像	・今までどおり、生徒数が多い佐原中学校に子どもを通わせたい ・(複数) 子どもたちが遊べる公園を作ってほしい（各地区 1 か所） ・もっと飲食店を ・県道沿いに歩道を作ってほしい ・北佐原の地図をつくる（ゼンリンの地図は古い） ・地域の中で高齢者の見守りを行っていくのにも限界があります。行政として事業者（電力・郵便・宅配便等）と一体となった見守りネットワークの構築の予定は？

～暮らしやすく、愛着の持てるふるさとづくりを目指して～

北 佐 原 ま ち づ く り ア ン ケ ー ト 調 査

ご協力をお願いします！

今年 2 月、香取市まちづくり条例に基づき、区長連合会をはじめ各種団体の横断的な連携・情報交換を図り、地域の様々な課題を解決する「北佐原まちづくり協議会」を設置しました。

協議会では、「地域まちづくり計画」を策定し、北佐原地区の将来目標（どのような地域にしていきたいかという「まちづくりの目標」）を立て、その目標に向かって様々な活動を展開していこうと考えています。

つきましては、「地域まちづくり計画」を作成するにあたり、北佐原地区にお住まいの皆さんの意見を大切に、反映させることが重要であることから、地域住民の皆さんの意見を伺うため、アンケート調査を実施いたします。

お忙しいところ恐縮ですが、以下の点に気をつけていただき、ご協力をよろしくお願いします。

◇記入にあたってのお願い

- この調査は、年代や男女の別など幅広く皆様から意向を伺いたいと考えております。したがって、今回、各世帯へ 2 部ずつ調査票を配布いたしますので、高校生以上の世帯員 2 名のアンケートをお願いします。
なお、単身世帯の方は、調査票 1 枚のみの記入をお願いします。
- この調査票は、封筒表面に記載のとおり区長、又は区役員等が回収しますので、そのときにご提出いただくか、各自で区長、又は区役員等までお届けください。
- なお、このアンケート調査で得られた回答データ及び個人情報については、当協議会の活動以外の目的には一切使用しません。

【問い合わせ先】

香取市佐原市民活動支援センター（香取市役所 2 階）

担当 浅野・平野

☎ 50 - 1213

Fax 52 - 4566

北佐原まちづくり協議会

アンケートをご回答いただくにあたって・・・

- ・選択方式の場合は、該当する欄の数字のところを、○でお囲みください。
- ・「複数回答可」の欄は、該当する欄のすべてを、○でお囲みください。
- ・（ ）欄は、記述になっていますので、それぞれのお考えなどをご記入ください。
- ・アンケートの設問内容がわからなかったり、難しいところがあれば、わかる範囲でご回答ください。（むやみに○を入れず、無回答にしてください。）

問1 お住まいの地区は、どこですか？

- | | | | |
|--------|--------|------|--------|
| 1：向津 | 2：砂場 | 3：荒川 | 4：筈島 |
| 5：長島第1 | 6：長島第2 | 7：中洲 | 8：篠原新田 |
| 9：野間谷原 | 10：石納 | | |

問2 性別は、どちらですか？

- | | |
|-----|-----|
| 1：男 | 2：女 |
|-----|-----|

問3 あなたの年齢は、満何歳ですか？

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1：16～18歳 | 2：19～29歳 | 3：30～49歳 |
| 4：50～64歳 | 5：65～74歳 | 6：75歳以上 |

問4 あなたの現在のご職業等は、何ですか？

- | | | |
|-------------|--------|------------------|
| 1：農業 | 2：自営業 | 3：会社員・団体職員・公務員など |
| 4：パート・アルバイト | 5：専業主婦 | 6：学生 |
| 7：無職（主婦を除く） | 8：その他（ | ） |

問5 北佐原地区に住んでいる理由は、何ですか？

- | | |
|--|---|
| 1：生まれも育ちも北佐原地区（若い頃に一時的に他地域に住んでいた人も含む。） | |
| 2：結婚した相手が北佐原地区出身者だった。 | |
| 3：新たな居住地として北佐原地区に住んでいる。 | |
| 4：その他（ | ） |

問6 北佐原地区は、住みやすい地域だと思いますか？

- 1：思う
- 2：思わない
- 3：わからない

問7 これからも北佐原地区に住み続けたいと思いますか？

- 1：ずっと住んでいたい
- 2：当面は住みたい
- 3：いずれは他地域に移りたい(理由：)
- 4：わからない

問8 自分の子や孫にも将来北佐原地区に住んでほしいと思いますか？

(お子さんがいらっしゃらない場合は、いると想定してお答えください)

- 1：ずっと住んでほしい
- 2：他地域に住んでもよい
- 3：若いうちは他地域でも構わないが、いずれは住んでほしい
- 4：わからない

問9 北佐原地区の将来を考えるうえで、特に重視すべきことは何ですか？

(複数回答可)

- 1：近所や地域のつきあい・助け合い
- 2：個人のプライバシー
- 3：青少年の健全育成
- 4：子どもの安心・安全の確保
- 5：子育て支援活動の充実
- 6：高齢者の生きがいや健康づくり
- 7：祭りやイベント、スポーツ等を通じた地区住民の交流
- 8：住民の健康維持や介護予防のための取組み
- 9：地域の清掃活動、ごみのポイ捨て解消などによる生活環境の改善
- 10：田園景観、水辺や緑などの自然環境の保全
- 11：震災、水害、火災などに対する防災対策
- 12：治安維持のための防犯対策・防犯活動

次ページへ続く

- 13：歴史や文化の保存・継承
- 14：農業後継者の育成（農業の振興）
- 15：雇用の場の確保
- 16：通院や買い物など“生活の足”の確保（バスなどの公共交通の充実）
- 17：地域を担う人材の育成
- 18：ボランティア活動の推進
- 19：その他（ ）

問10 少子化は、北佐原地区においては深刻な問題です。

そんな中で、地域で、できることは何だと思いますか？（複数回答可）

- 1：若者が地域に定着できるよう、魅力ある地域づくりを行う
- 2：子ども時代に地域の自然の中で遊び、学ぶことにより、地域への愛着心を育む
- 3：祭りなどの地域行事を通じた地域住民のコミュニケーションを充実させ、人と人とのつながりを大切にしたい地域づくりを行う
- 4：地域全体で、北佐原地区の子供たちを育て、見守り、子育てがしやすい環境づくりを行う
- 5：少子化対策は全国的に行われていても解決に至っていない難しい問題であるので、地域でできることはない
- 6：わからない
- 7：その他（ ）

問11 地区の安全対策として、地域で行えば良いと思うことは何ですか？

（複数回答可）

- 1：子どもの通学の際の見守り活動
- 2：高齢者世帯の健康確認を含めた見守り活動
- 3：災害時における要援護者の把握と援護体制づくり
- 4：地区全体で毎年、防災訓練を行い、地震などの自然災害や火事などに備える
- 5：高齢者を対象にした交通安全教室や防犯教室の開催による意識啓発
- 6：安全・安心対策は各自で行うことであり、地域が行うことではない
- 7：その他（ ）

問 1 2 高齢者福祉に関することで、地区にあったらいいと思うサービス(事業)はありますか? (複数回答可)

- 1 : 高齢者などを対象にした昼間の見守り活動
- 2 : 趣味の活動の場など、多くの方とふれあえる機会の提供
- 3 : 好きなときに集まり、交流ができる(交流サロンなど)の開設
- 4 : 健康維持や介護予防のための健康教室の開催
- 5 : 病院や買い物などへの送迎サービス
- 6 : 高齢者と同居していないので、わからない
- 7 : その他 ()

問 1 3 まちづくりというと、どのようなイメージがありますか?

- 1 : 行政が主体的に進めるもの
- 2 : 一部の人たちが行っているもの
- 3 : 住民が主体的に行うもの
- 4 : 住民と行政が協働で行うもの
- 5 : わからない

問 1 4 これからのまちづくりには、住民参加が不可欠だと思いますが、あなたは、どのようにお考えですか?

- 1 : 何事にも積極的に参加したい
- 2 : 内容や頻度等によっては、積極的に参加したい
- 3 : 頼まれれば、可能な範囲で参加・協力したい。
- 4 : 関心がない
- 5 : わからない
- 6 : その他 ()

問 1 5 あなたは、「北佐原まちづくり協議会」が設立されたことを知っていましたか?

- 1 : 知っていた
- 2 : 知らなかった

問 1 6 地区で解決することが必要と思われることについて、具体的なご意見やアイデアが有りましたら、ご記入ください。

- 地区で解決したほうがよいと思われる課題など

- 地区の課題を解決するためのアイデア・意見等

(例：北佐原地区住民相互の親睦を深めるため、地区運動会を開催する など)

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

※今後の「北佐原まちづくり協議会」の活動にご協力くださいますようお願い申し上げます。

住民アンケート調査 自由意見（一部抜粋）

防災・防犯	・夜、道路等かなり暗くなるので外灯を増やすべき ・空き缶、ゴミ等が道路や田んぼに捨てられているので地域で掃除等をしたらよいと思われる。 ・震災や水害時に橋、道路の破損で孤立化するおそれがある。 ・今でも高齢者にとって交通面で不便を感じる（更に高齢化が進むと心配） ・夜間、住民の安全確保の為に街灯の設置を行って欲しい。 ・他県地域と友好関係を結び今後、昨年の震災のような非常事態が起きた際などの受け入れや農業技術などの交流交換を行えるようにしてほしい。 ・災害時における避難場所及び食料品等の確保 ・災害時の避難場所が小学校のみであるが、地区ごとに対応すべきだと思う。 ・水生植物園隣のエクシオールの介護施設へ通じる橋が災害時でも現存しているよう強化すべきである。区が一時避難施設として使用できるよう区の備蓄等協定を交わしてもらいたい。 ・大型ダンプが危ない。 ・地区パトロールが無い。 ・今の現状を考えると防災関係への取組みがない。システムを作り上げる時、地区全員で話し合う。機会を作ることで「親睦」から「公助」に向けた取組みができる。 ・環境・防犯パトロール隊を作り見回りをする。 ・道路の幅が狭いため、歩行者や自転車の通行が危険（道幅を広くする。夜間もっと明るくする）
-------	--

交通	・通学などどこに行くのも不便 ・子供達の通学の足の確保（スクールバス運行） ・高齢者の生活の足となるものをもっと増やすようにする。 ・ワゴン車などの利用ができるようにする。 ・移動手段が1日数本のバスと自家用車とタクシーとすると独居老人や年金生活者には病気等になった時不安である。 ・北佐原小学校への登下校時の周辺の混雑。車道が細いため車がすれ違うのが大変だが、一方通行もなく父母たちでルール作りもしていないため危険だと思うので改善してほしい。
----	---

健康・ 高齢者福祉	・集会所で月１回でも高齢者の集いが欲しい。カラオケ会でも保健所の方の健康についての話でも何でもいいです。近所に住んでいても１年も２年も顔も合わせたことが無い人が多いです。 ・公園でゲートボールをやっているのでゲートボール専用の場所を設けてもらいたい。（小さい子供が遊ぶのに危ない。） ・公園に遊具をもう少し増やしてほしい。 ・農地転用手続きが大変で新しい居住者が増えない。 ・高齢化が進んでいる。 ・雇用を生む産業がない。 ・使われていない農地が増えている。 ・グランドゴルフ大会を推薦する。 ・若い世代は仕事で外に出ているので、高齢者同士がお互いに見守り見守られているようにする。 ・高齢者自身が地域のこと、近所に関心を持つようになる。お年寄りが働ける環境、お金とかでなく自分も地域のためになっていると思えるようになる。 ・地区で集会場がありますが一度もその会場へ行ったことがない。その年度の役員中心となってコミュニケーションの為に身体のケアやサークルで活用すべきと思います。
----------------------	---

生活環境・ 自然	・道路や田んぼにゴミを平気で捨てる人がいるので、大変困っている。地域の美化活動を積極的に行いたい。 ・道路事情が良くなったため、他県からの車の流入が頻繁になり、それに伴いゴミ等のポイ捨てが目に見えて増加傾向にあります。また、同理由により不審者等の情報も度々聞こえております。ポイ捨て防止の啓発看板（不審者等も含む）の設置、防犯のための青パト巡回等の実施が実現できればと考えております。 ・北佐原地区の土手や農道にポイ捨てが多いと感じます。地区住民のポイ捨てしない意識づけが大切だと思います。地区がきれいになったら通行人も捨てないと思います。 ・神社の植木の手入れ。お宮が見える位にスッキリした環境にしてほしい。 ・ごみ拾い活動（年３～４回）
---------------------	--

子ども・教育	・年々子供の数が少なくなり、地区の人数も増えない中での活動で共働きだったり片親だったりで一部の親の負担が多いので地区の人数を一定以上に確保してほしいと思います。 ・低学年の間は地区や近くでしか遊べないと地区や近くに子供がいないと遊ぶ人もいなくてかわいそうです。 ・子供たちが安心して遊べる場所を作ったほうが良いと思う。 ・いつも遊ぶ家が決まっているので外で広々と遊べる公園があったら鬼ごっこや一輪車や鉄棒の練習ができるのに… そして、その近くに親やお年寄りのカルチャースクール的なものがあれば、子供達の防犯にもなるし、いろいろな方とのコミュニケーションが取れると思います。雨の日は、そこで子供達も集まって勉強もできるスペースなどがあると地域全体としての輪が年齢も関係なくつながると思います。 ・会場は北佐原小体育館で文化活動、演劇、後援会等の開催を希望します。 ・小学校を中心とした地区活動。ただし、学校授業が多くならないようにする必要がある。子育て時に家族での時間が少なくなってしまう。共働きの家庭が多いから。
---------------	---

産業	・農業（米）の質の向上に対する認識 ・今後の田んぼ作りここでは出来なくなると思う。地区全体で借り受け大規模化しなければ続けることができなくなると思う。 ・農業の将来を話し合う場を設ける。 ・休耕田の有効利用 ・朝市（例 閘門にて）・フリーマーケット ・北佐原は約422年前の天正18年（1590年）に16島開墾から佐原村の農業者として住んでおります。しかし、TPP問題等から今後は農業を離れる人が多くなると思います。農業対策として各部落ごとに協同し、まとめる人材が必要となる事でしょう。決して休耕地を増やすことをせず、農具等の共同利用を図り将来設計をできる話し合いを持てる場を提供してください。 ・後継者不足はどのように解決するのか。協力対策の樹立 ・田植え、稲刈りなどを手助けしてくれるシステムや施設づくり
-----------	---

地域 コミュニティ・住民交 流	・近所や地域の付き合い、助け合いが少なくなった ・結の心をもっと ・親睦を深めるためグランドゴルフ大会、又運動会も良いと思う ・横利根（関門）を利用した何かイベントがあれば？ ・昔、北佐原でやっていた盆踊りなどを復活させて地域の人々との交流を深めるといいと思う。 ・田舎の古い因習をなくしてほしい ・現在、北佐原地区ではPTA(OBを含む)が主体となり、北佐原グランドゴルフ大会が催されておりますが、参加者が小学生、保護者、高齢者クラブと若者や一般成人の方々の参加が全くないのが現状です。道具調達の間からも極力器具等を使用しないで済む形での全世代が楽しく参加できる催しができればよいと思います。 ・年齢を問わず住民どうしの交流、例えば、地区運動会など。特に高校を卒業した年齢の若い子供たちに参加してもらいたい ・従来の親子のグランドゴルフなど親睦を深めるために続けること（小学校校庭で） ・親睦を深めるための運動会やると良いと思います。3世代の交流グランドゴルフ、盆踊り、地区の皆で花作り、長島川付近にアジサイ、桜、水仙等（休耕田）。時代は進歩していますが「結」・支え合いが薄いと思います。住民相互の親睦を深め、力を合わせる事が重要だと感じます。 ・同年代の人達だけの集まりがあれば色々な話ができストレスや不満の軽減につながると思う ・地区外の人へ地区の魅力を伝えるためのイベントを開催、地区内向けのイベントは、逆に面倒事が増えて負担になりかねません。（地区運動会は反対です。） ・住民と行政が協同で行えるものなど！ ・地区運動会等（ただし、だれでも参加しやすい内容を！！） ・地区の子供が減り廃品回収をする際、回収する家の把握がだんだん難しくなってきた。何か所か回収場所を決めるなどスムーズに廃品回収ができるようになると良い
--------------------------------	---

その他・ 市への要 望など	消防団の長期化。区長の単年での交代
	消防団や地区の行事など構成員が不足して破たんしているのにして ないように続いている。体制や組織が人の負担にならないように定 期的に見直ししなければならないと思う。
	高齢者の親睦、健康保持のため市所有地である与田浦１２町歩の一 部をグラウンドゴルフ遊技場に整備解放して頂きたい。
	市で出しているバスだが一人暮らしのお年寄りにはとてもいいもの だと思うが誰も乗ってない時も多い。何かいい方法はないものだろ うか。子供が少なくなっているのは、結婚できずにいる人が増えて いるからだと思う。集団お見合いなどを行えばいいのではないか。
	いなか（北佐原）にも文化ありといわれるように。
	地区の子供が減り廃品回収をする際、回収する家の把握がだんだん 難しくなってきました。何か所か回収場所を決めるなどスムーズに 廃品回収ができるようになると良いと思います。
	現実に関、何が問題なのかわかりません。
	住民と行政が常にコミュニケーションを取りながら改善することを 願います。
	憩いの家の修復を早く行って欲しい。液状化によるアスファルトの 亀裂がひどい。小学校の送迎の車の混雑がひどい。
	若い年代の人が住んでもだんだんと出て行ってしまふことが問題だ と思う。
	解決は難しいと思いますが少子化を防ぐためには新たに北佐原に住 む人を増やすことが一番だと思います。地区外の人から見て何か魅 力ある地域とならない限り過疎は進み若者はいなくなり何も解決で きなくなります。
	当面の重要課題として高齢化（少子化はすぐには解決が難しいと思 う。）少子化が課題であるが、生産者（１５～６０歳）が居住しない と子供が増えることがないため、その層へのケアが必用である。佐 原は、地域活動が盛んで充実していることが良いところである。現 状を維持しながら簡素化したり、新しいやり方を考えていくことが 必要と思う。
	協議会ができることをまず進めてはいかがですか。
	役員の時だけの協力体制で個人レベルの意識が低いので意識・認 識・協力が必要だと思う。

	将来買物難民になる可能性がある。故にパルナ、アピタへの交通手段として横利根川への橋を架けてほしいと希望する。（自転車、人間だけでも良い位の）国や県（市では無理）に働きかけていきたい。
	公会堂などへの目安箱の設置。
	例の地区運動会は、小学校で敬老招待も行っているのであえて開催することはしないほうが良いと思う。親睦はなされていると思う。現在以上のことは望まない。
	小学校の運動会参加、グランドゴルフ大会の参加等十分に親睦を深めているので新しいことは望まない。若い人は働いて生活を確保しなければならないので負担に感じることはなるべく避けてほしい。民生委員だけに頼らないで自分たちにできることをしたほうが良いと思う。
	学校の父母会で議題にしてほしい。
	高齢者が元気の時には若い世代への協力をお願いしたい。 若い世代の役員負担が重く、元気な高齢者の役員負担をお願いしたい。
	以前、小学校 PTA によるママさんバレーが行われていましたが、色々な面で賛否両論であったと思う。親睦を深める目的であったと思うが選手とそうでない人との立場の相違による表面に出てきなかった時間の無駄と心の苦しみを感じたものは少なくなったかと思う。 従って運動会となると運動の得意な者と考えるだけでも心のプレッシャーになる者もいることを知るべきである。無理な参加を強要したり参加しないからといって差別ある様なことがあってはならない。親睦の目的が違う問題を出してはならない。ママさんバレーの二の舞にならんことを祈っている。